

---

# 愛・コンタクト

きうい餅

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

愛・コンタクト

### 【ZPDF】

Z6892A

### 【作者名】

きつじ餅

### 【あらすじ】

見ていいものと、いけないもの。見ることはできても、見ないほうがいいもの。

見てもいいものと

いけないものがある

廊下を独特のステップで駆ける音。  
あの「」に、違いない。

「聞いてええええええ！…るくへひやああああん…！」  
奏城るくは、長いストレートの髪をさらりと振りながら振り向いた。

叫びながらやつてきた宇田ゆなは、  
るくの肩をがつしつつかむ。

勢いがあつて、すごい力だ、るくは圧倒された。  
おつと、眼鏡が落ちちゃうじゃないか。

「あたしーい、佐原くんと付き合つことになーい…！」  
「おめでとう！」

るくは驚いた様子もなく、わらつと呟つた。  
それが気に入らなかつたのか、  
驚くとthoughtっていたのだろう、

「なんか、知つてたよな反応だね？」  
ゆなは少しふくれ、ゆな、つまらん、と言つた。  
それを聞いて、るくに衝撃が走つた。

「そうだよ、

知つていたから、この反応なんだよ

「そつ、そんなことないよ……おめでとー！」

心の内とは裏腹に、

わざとらしく手をあげて、”やつたー”のポーズをした。

一般の人なら疑つてしまつところでも、  
ゆなはすぐに信じるし、疑うことを探らぬよつだ。

単純で良かつた：

”素直”という意味で、るくはゆなのが好きだ。  
誰に対しても明るく、人見知りのしないゆなだからこそ、  
少し”くせ”のあるゆなと、中学に入つて3年生になる今まで、  
ずっと仲良しへることが出来たのである。  
ところでの”くせ”とは、ふたつある。  
ひとつは、ゆなとは逆に、人見知りだといつこと。  
そしてもうひとつ

私は、このだて眼鏡を外し、  
人の瞳を「直接」見ると、  
その人の、  
今一番愛している人が、見えるのだ

見え方は「幽霊」のようだ

見つめた本人のすぐ横に、ぼやつと顔が見える

好きな人が見えない、といつことはない

異性でなくとも、親や、友達が一番大事、といつこともあるからだ

なぜ見えるのかはわからない  
そして、なぜ「わたし」なのかも

この能力により、ゆなと、ゆなができたて彼氏、佐原君の、  
好きな人を事前に知つていたので、いつかはこんな日がくると、

驚くこともなかつたといつわけだ。

わかっているよ

これは、見てはいけないものなんだつて  
そして最近、もうひとつわかつたことがある  
私は「恋」をしたことがないし、興味がない  
だけど、それは

「あたつ」

るくは頭部に痛みを感じた、ぽかつという軽い音の。  
振り向くと、そこには同じクラスの新野颯太にいのそうたが、口元をほこりばせ  
ながら立つている。

いつもいつも、こいつは ！

「そんなとこに突つ立つてると、邪魔なんだけど？」  
言いながら、彼は私のだて眼鏡をはずしてしまった。  
こいつはもしかして、私が目が良いことを、知つているのか？  
いや…ただの、こつものいたずらなんだろうな。  
「ちょっと …」

私は、何も遮るもの無しに、彼の瞳を見つめてしまった。

もしかしたら、私は恋をしているのだろうか？

誰だつて、自分のことが一番わかつていいよつで、わかつていないので

これはその、暗示なんだろうか？

「恋」をしたことがないし、興味がないといつのはさきと言つて訳で

新野は何かといつも、私に絡んでくる。  
顔を合わせば、眼鏡ちゃん、と言つて張るし、  
自分の身長を生かして、頭をぽんぽん叩き、子供も扱いしてくる。

その度に、私はこりこりしていたのはずなのだが

知っていたよ

私、好きな人がいるんだ  
だって、彼、今見つめてしまつた人の  
好きな人だけは、見えないから

「…返して」私はうつむきながら、手を出した。

「…お？今日は、いつになくしょらしい反応じゃん。好きなやつで  
もできたか？」

新野は片手をズボンのポケットに突っ込みながら、私の眼鏡を返し  
てくれた。

見なかつたことにしよう

見ることができても、見ないほうがいいものもある

「そうかもね、できたのかも  
「…まじ？」

私はこれからも、見てはいけないものを見てしまつんだらう  
だけど、さつとがんばるから  
目と目で見なくとも  
心の瞳で見ることができるよ！」



(後書き)

まだまだ未熟です…でも田を通していくださつただけで嬉しいです

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6892a/>

---

愛・コンタクト

2010年11月19日08時04分発行